

令和7年1月8日

各都道府県建設業協会会長 殿

一般社団法人 全国建設業協会  
会 長 今 井 雅 則

昭和百年記念昭和天皇記念館大規模刷新・維持事業への  
寄附金についてご協力をお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃より全建の活動に対しご理解とご協力を賜りありがとうございます。

さて、この度、公益財団法人昭和聖徳記念財団より別添のとおり昭和百年記念事業として、国営昭和記念公園（東京都立川市）内にある昭和天皇記念館の展示内容の大規模刷新等のための寄附をお願いしたい旨依頼がありました。

本事業につきましては、経済界全体で支援していこうとの動きとなっており、（一社）日本経済団体連合会、日本商工会議所及び（公社）経済同友会からも当会に対し協力をお願いされております。

貴協会及び貴協会の会員各位におかれましては、本事業の趣旨をご理解のうえ可能な範囲でご協力をいただければ大変ありがたく存じます。

寄附の単位につきましては、個人一口1,000円、法人一口10,000円となっております。申込み及び寄附の実施は（公財）昭和聖徳記念財団のホームページ（<https://f-showa.or.jp/>）から直接お願いいたします。

なお、本事業への寄附金については、申告により税法上の優遇措置を受けることが可能となっております（個人：支払った年分の所得控除として寄附金控除、法人：「特定公益増進法人」に対する寄附金として損金算入。別添パンフレットを参照。）。

また、高額寄附者（個人100万円以上、法人500万円以上）の方々は、昭和天皇記念館内の銘板等にご芳名を記入し末永く顕彰されます。

何卒、よろしくお願い申し上げます。

敬具

令和6年12月

一般社団法人全国建設業協会 御中

公益財団法人昭和聖徳記念財団

会長 伊吹文明

昭和百年記念事業

昭和天皇記念館大規模刷新・維持募金委員会

会長 御手洗富士夫

特別顧問 三村明夫

昭和百年記念昭和天皇記念館大規模刷新・維持事業への寄附金についてご協力をお願い

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は公益財団法人昭和聖徳記念財団の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当財団は、昭和天皇のご遺徳を偲ぶ記念事業を起し、そのご聖徳を永く語り継ぐため、当時の大槻文平日経連名誉会長が主導して平成4年1月に設立されました。平成17年11月には、全国民から寄せられた浄財を基に昭和天皇記念館を開館し、全国から多数ご来館いただいております。

当財団の主な収入源は基本財産等の運用益及び昭和天皇記念館の入館料ですが、運用益は金利及び為替レートの低迷により近年はごくわずかとなり、入館料の収入についても、昭和が遠くなりつつある時代の趨勢によって、漸減している状況です。これらの結果、財団の赤字は毎年大きなものとなっており、このまま推移していけば諸事業を継続していくことは困難となることが危惧されております。

一方、令和8年には昭和改元から100周年を迎えますので、昭和百年記念事業として、この際、昭和天皇記念館の展示内容を大幅に刷新して現代の人々にも親しみやすいものとし、未永く維持したいと考えております。

諸事ご多端の折り甚だ恐縮とは存じますが、各界のご支援を伏してお願い申し上げます。

敬具

2024年9月

各位

(一社) 日本経済団体連合会  
会長 十倉 雅和

日本商工会議所  
会頭 小林 健

(公社) 経済同友会  
代表幹事 新浪 剛史

[公印省略]

## 昭和百年記念事業

### 「昭和天皇記念館」大規模刷新・維持事業へのご協力をお願い

拝啓 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、昭和天皇記念館は、御在位50年記念事業の一環として東京・立川市内に整備された昭和記念公園内に2005年11月に開館いたしました。爾来、述べ35万人の来場者を迎え、そのご生涯を映像や写真をもってご紹介するとともに所縁の品々を展示し、昭和天皇のご聖徳を広くお伝えしてまいりました。

昭和天皇は、明治、大正、昭和に及ぶ激動の時代とともにありました。ご即位後は旧憲法の下で国のかじ取りを担われ、戦前・戦中に至る苦難を経て、昭和20年8月15日には終戦の詔書いわゆる玉音放送において、全国民に語りかけました。戦後は人間天皇として、荒廃した国土や産業、人々の暮らしに御心を砕かれ、国民を慰め励ましたいと強いご意思から総行程33,000kmにおよぶ日本全国を巡幸されました。被災した市民への慈しみ、復興や困難に立ち向かう国民、企業人、地域への励ましが、その後の高度経済成長、ひいては現在の平和と繁栄に繋がったことは言を俟ちません。

2026年に昭和100年を迎えるにあたり、同記念館を管理する昭和聖徳記念財団(会長 伊吹文明元衆議院議長)では、昭和天皇のご遺徳とご事蹟を現代に繋ぎ、これからは生きる全ての人々の道しるべとなるよう、同記念館をより親しみやすく改装することを企図し、同募金委員会の御手洗富士夫会長(経団連名誉会長)より経済界に対し、特段のご協力を得たい旨の依頼がございました。

つきましては、関係者よりご協力の依頼がありました際には、何卒、趣旨ご賢察の上、格別のご高配を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬具